

令和6年度

奈良県公立高等学校入学者特色選抜学力検査問題

国語

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

(注) 今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』による)

(注) ホケットIIアメリカの言語学者

バクリウマ目バク科の哺乳類

音形IIある特徴をもった一連の音のまとまり

日本語コミュニケーションII日本語を話す人々の集まり

(一) ☐ Aの漢字の読みを平仮名で書き、☐ Bの片仮名を漢字で書け。

(二) 線①が直接かかる部分はどれか。次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 音声言語であれ手話であれ イ 私たちの発話は
ウ 相手に意図を伝えることを エ 目的としている

(三) 線②を筆者はどのようなものであると述べているか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 相手に意図を伝えるために表現されているわけではないことから、
言語とは言えないもの。

イ 特別な文脈がなければ相手に意味を伝えられないことから、言語の
役割を果たすとは言えないもの。

ウ 自分とのコミュニケーションとも捉えられることから、言語の性質
を備えていると言えるもの。

エ 聞き手や読み手としての他者を想定して発したり書いたりされるこ
とから、言語と言えるもの。

(四)

「I」の部分は、この文章の中でどのような働きをしているか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 他の言語圏における、これまでに述べた内容とは対照的な例を示すことで、新たな論につなげている。

イ 他の言語圏における、これまでに述べた内容と共通する話題を加えることで、考えを補強している。

ウ 他の言語圏における、これまでに述べた内容と関わる筆者の体験を示すことで、臨場感をもたせている。

エ 他の言語圏における例と、これまでに述べた内容とを比較することで、考えの独自性を強調している。

(五) 線③の具体例として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 「鳩」は、平和の象徴として広く認識されている。
イ 多くの日本人は、富士山を「美しい」と表現する。

ウ 「こんにちば」という挨拶は、人間関係を円滑にする。
エ 「歩く」という言葉は、歩く動作を言い表している。

(六) 線④として考えられる状況について述べた一文を、文章中から抜き出し、その最初の五字を書け。

(七) この文章の要旨を、「オノマトペは、」に続けて、文章中の言葉を用いて簡潔に書け。

(八) 線部を全体の調和を考え、楷書で、一行で丁寧に書け。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

桜は、初花より人の心もうきうきしく、きのふくれけふ^①ふくれ、ここかしこ咲きも残らぬ折節は、花もたぬ木の梢々もうるはしく、くるれば又あすもこんと契り置きしに、雨降るもうたてし。とかくして春も末になりゆけば、散りつくす世の有様を見つれど、又来る春をたのむもはかなし。あるは連山さくら、青葉がくれの遅さくら、若葉の花^②風情おのおの一樣ならず。桜は百華に秀でて、古今もろ人の風雅のなかだちとす。
(「独」による)

(注) 初花Ⅱ咲きはじめての花 咲きも残らぬ折節Ⅱ花が満開のころ
花もたぬ木Ⅱ桜ではない木 うたてしⅡ噴かわしい
若葉の花Ⅱ若葉の頃の桜の花 百華Ⅱ様々な種類の花
風雅Ⅱ詩歌・文章の道

(一) 線①を現代仮名遣いに直して書け。
線②の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 来年の春を想像する イ 来年の春に備える
ウ 来年の春に期待する エ 来年の春を迎える

(三) 線③とはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 桜は咲きはじめてから散るまで、趣が同じではないということ。
イ 桜には、見る場所や時期によって、異なる趣があるということ。
ウ 桜には、時代や国を越えて愛される普遍的な趣があるということ。
エ 桜は育つ場所ごとに咲き方が異なり、多様な趣があるということ。

この部分については
著作権により公表できません

「広辞苑」による

質問：「破天荒」の意味はどちらだと思うか。

「誰も成し得なかったことをすること」
「豪快で大胆な様子」
（「誰も成し得なかったことをすること」は、辞書等で本来の意味とされてきたもの。）

	誰も成し得なかったことをすること	豪快で大胆な様子	その他
令和2年度	23.3 %	65.4 %	11.2 %

※表内の数値は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%になっていない。

文化庁「令和2年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」から作成

(一) 【原稿の一部】の——線部の「命」と同じ意味で使われている「命」を含む熟語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 命名 イ 命令 ウ 運命 エ 延命

(二) 春香さんは、【原稿の一部】の（ ）（ ）のところに次の□内の一文を書き加えることにした。そのねらいとして最も適切なものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

これは、言葉の由来が意識されることなく、意味が変化していく例の一つと言えるだろう。

ア これまでの内容をまとめ、この後示す自分の意見につなげるねらい。
イ 話題を転換し、これまでと違う視点から自分の意見を伝えるねらい。

春香さんは、国語科の授業で、言葉について調べたり考えたりしたことを小冊子にまとめる学習をしている。次は、春香さんが「言葉の変化」についてのページを作成した際の【原稿の一部】と、【資料1】【資料2】である。これらを読み、各問いに答えよ。

【原稿の一部】

言葉は、時代によって変化するのが宿命であると言われている。例えば、中国の故事から生まれた「破天荒」という言葉がある。『広辞苑』によると、「天荒」は天地未開の時の混沌としたさまで、これを「破りひらく」意とあり、ここから今まで誰もしなかったことをすることを「破天荒」と言うようになったとされる。

ところが、文化庁が実施した令和2年度の調査によると、「破天荒」の意味を本来の意味とは異なる「豪快で大胆な様子」と捉えている人の割合が約六十五パーセントに上がることがわかる。自由奔放な行動に對し、辞書に示されていない意味合いで「破天荒」という言葉が使われている場面に、私も出会ったことがある。()

私は、それぞれの言葉の由来などが意識されないのは、残念なことだと感じている。言葉は変化するものであるということを前提としつつも、それぞれの言葉の成立した背景を知り、本来の意味や使い方を大切に守っていくこうとする姿勢が、言語文化を継承していく上で必要なのではないかと考える。

(注) 混沌としたさまⅡ物事の区別がはっきりしないさま

ウ より具体的な例を加え、読み手が想像しやすいようにするねらい。

エ 直前に述べた意見を言い換え、伝えたいことを印象づけるねらい。

(三) 【原稿の一部】からわかる春香さんの文章の述べ方の工夫として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 複数の資料を比較しながら、違いを明確にして述べている。

イ 資料全体をそのまま引用し、事実を詳細に述べている。

ウ 先に意見を示し、根拠を複数の資料から選んで述べている。

エ 資料を引用しながら、事実と意見を区別して述べている。

(四) あなたが未来に残したいと思う言葉は何か。残したい理由を含めて八十文字以内で書け。